

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610310108		
法人名	医療法人 道志社		
事業所名	グループホーム小松島		
所在地	小松島市田浦町近里		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3610310108&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3610310108&amp;SCD=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年11月25日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

体力の低下を防ぐため、毎朝の体操や散歩に力を入れている。入居前には事業所に来ていただき、グループホームに慣れてからサービスを利用することができる。また、学習療法を取り入れて認知症の改善に努めている。希望者には毎日行っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体法人の病院に隣接しているため、定期的な受診や緊急時の対応が可能な環境のもとにあり、利用者や家族の安心に繋がっている。また、夜間は各ユニットごとに職員を配置しており十分な支援体制を築いている。管理者や職員は、基本理念である「家庭の温もりとやさしさそして地域と共に」を共有し、利用者が今までの家庭生活を継続できるように接している。家族に、居室の環境について相談して馴染みの品物を持ち込んでもらい、利用者が落ち着いて過ごせる雰囲気づくりに配慮している。頻繁に散歩をしており、体力の維持や気分転換に繋がっている。散歩の際、地域住民と交流するなど地域との繋がりがりも大切に支援している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日ごろから、理念を念頭におき支援している。職員は、利用者にはできることは手伝ってもらいながら、毎日を家族のように過ごしている。	管理者と職員は、朝の申し送り時に理念を唱和し、家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごせるよう支援している。急がず見守る気持ちで利用者と接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	なるべく散歩に出かけ、出会う方々に挨拶をしている。また、近隣の養護老人ホームの行事や小学校の運動会に毎年参加している。	地域の小学校の運動会に参加している。また、隣接する他の介護サービス事業所の文化祭に利用者の作品を出品したり、散歩に出かけて地域の方に声かけを行うなどして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々に事業所に来てもらい、グループホームについて説明している。認知症の人がいたら、いつでも相談に応じることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族代表、地域住民、地域包括支援センター職員に出席してもらい、意見・情報交換等を行っている。また、元消防署職員の参加もあり災害時の対応等話し合っただけアドバイスももらっている。	運営推進会議は2か月ごとに開催している。家族や地域住民、地域包括支援センター職員、市職員、協力医療機関、職員の参加がある。行事報告や支援の内容について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日々の提出書類は、役場の人に直接手渡ししており、密に交流を図るようにしている。わからないことがあるときは相談するようにしている。	市役所へ書類を直接持参している。市担当者との交流を図り、何でも相談できる関係を築いている。市担当者の人事異動の際にも、連携を図りながら協力関係の維持・向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束は行っていない。玄関の施錠について職員間で協議を行い、午後から時間を決めて見守る体制をつくった。開錠中は、玄関周辺に常に気を配りセンサーが鳴れば確認するようにしている。	日ごろから、家族や職員間で玄関の施錠について話し合っている。午前中は施錠しているが、午後はセンサー音による確認と見守りを強化し、安全を確保できるよう改善されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者が安心して穏やかに楽しく生活できるように、職員は常に配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している利用者はいない。今後のために、研修会があれば出席する体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の希望や意見等に応じる体制を整えている。玄関に意見箱を設置し、言いにくいことでも書いてもらえるようにしている。	意見箱は設置しているが投稿はない。家族の来訪時に、希望や不満、不安に思うことなどを聞いている。運営推進会議に家族の参加があることから、意見や要望を表しやすい雰囲気づくりに配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループホームミーティングを開催している。職員間で話し合い、より良い事業所になるよう努めている。	全職員でミーティングを行い、職員間の意見交換やアンケートを実施し、待遇改善や運営改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間の仲が良く、助け合って日々の業務に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修会に出席してもらい、受講に要する費用や手当を出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とは、運営推進会議に相互に出席しあい、よいところは取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談により、生活状態を把握するようにしている。本人の求めていることや不安に思っていることをしっかりと受け止め、安心して生活してもらえるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めていることを理解し、どのようにサービスを提供できるかを事前に話しあっている。面会にこられた際にも要望を聞く等、常に対話を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の実情や要望をもとに、本人に必要なサービスを十分に見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と共に生活しているという意識をもち支援している。利用者には、無理のない程度で生活面のお手伝いをしてもらっており、生活を楽しく共有できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と同じような思いで支援しており、利用者にてきそうなお手伝いは進んでしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の来訪時には、お茶や会話等を楽しんでおり、居心地よく過ごしてもらっている。事業所へ気軽に出入りできるような雰囲気づくりに努めている。	友人や知人の来訪を利用者とともに歓迎し馴染みの関係やこれまでの関係を継続できるよう努めている。家族の協力のもと、懐かしい場所への外出や墓参り等の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション、散歩等で利用者同士が団らんでできるような雰囲気づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去にいたった利用者の近況を把握し、可能な限り関係を維持できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望する暮らし方などの意向を把握し、ストレスのかからない自然体での生活ができるよう努めている。	職員は、利用者一人ひとりの思いや希望を把握するのが困難な場合でも、じっくりと向き合って話を聞き、少しでも意向にそえるように本人の視点に立った支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を把握し、利用者一人ひとりのできそうなことを探し出して生活に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい暮らし方を支援し、できることを優先して取り組んでもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の視点に立って必要な支援を取り入れ、介護計画を作成し、モニタリングができるようにしている。	利用者や家族の思い・要望を聞き、全職員で話し合って介護計画を作成している。状況の変化に応じてアセスメントとモニタリングを行い、適切な支援ができるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの介護日誌や観察記録に記載している。職員間で情報を共有しながら、日々のケアがより良いものになるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに応じて柔軟な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回、運営推進会議のメンバーが事業所を訪れ話し相手になってくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、外来受診の支援を行っている。また、本人や家族の希望に応じて通院の支援を行っている。	月1～2回、母体法人の医療機関の外来受診を行うなど、適切な医療支援を行っている。また、家族の協力のもと、馴染みの医療機関を受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師の資格を保有しているため、常に利用者の健康管理や状態に応じた対応を行っている。管理者が不在のときは、マニュアルに従い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心理的なダメージを防ぐため、医療機関等の関係者と協働のうえ、事業所での対応が可能になった場合には、なるべく早く退院できるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所のターミナルケア指針に基づき、本人や家族の意向を踏まえて対応している。	過去にターミナルケアを実践した経験があり、指針を作成している。しかし、利用者や家族の意向を把握するための話し合いの機会が十分に設けられていない。	利用者の心身状況の変化に伴い、本人や家族と早い段階から指針に基づく話し合いをされたい。また、全職員で事業所としての支援方針を共有されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状況の変化や事故に備え、緊急時対応マニュアルを整備し、全職員に周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置や災害時マニュアルを作成している。年2回、避難訓練を行っている。	災害時の対応マニュアルを作成している。年2回、防火訓練や夜間を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議で地元の元消防団員による避難誘導のアドバイスを受けている。しかし、訓練等での実践的な取り組みまではいっていない。	訓練等をとおして、消防署との協力関係をより一層構築されるように期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格を把握し、プライバシーに配慮した対応をしている。隣接する医療機関において、接遇に関する研修会を受講する機会を設けている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう心がけ、利用者の目線で声かけを行うように努めている。接遇研修を全職員が受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや意向が反映できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの意見や思い、ペースを大切に、その人らしい暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着や外出時の服装にもその人らしい身だしなみ、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しみなものになるように、利用者一人ひとりの好みや力を活かしながら支援している。調理の下ごしらえなど、利用者にとできることを協力してもらっている。利用者と職員が同じテーブルで会話を楽しみながら食事をとっている。	食卓に季節の花を飾り、明るい室内で利用者と職員が同じテーブルで会話をしながら食事を楽しんでいる。テーブル拭きや片付けを手伝ってもらい、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立で支援している。職員は、水分摂取にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや義歯の洗浄など、職員が見守りながら本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの行動や些細な動作から把握してトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄をしてもらえるよう努めている。利用者の残存機能を活かし、時間を決めてなるべくトイレで排泄できるように支援している。	些細な仕草や動作による排泄のサインを見逃さないように努め、トイレ誘導の支援等を行っている。職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、紙パンツの使用を減らすよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のある人には、水分を多くとってもらったり、散歩や運動をしてもらっている。便秘解消できない場合には緩下剤を飲んでもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望やタイミングに応じて入浴の声をかけている。日ごろから、利用者の気持ちを優先し、楽しんで入浴できるよう支援している。体調や希望に応じた入浴の支援を行っている。	原則、隔日の入浴となっているが、希望に応じて入浴できる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況により、日中の休息や早めの就寝を促すなど、利用者一人ひとりの状況に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量の変更時、状態変化が見受けられた際などには、そのつど記録し、協力医療機関との連携のもと支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野や生活歴を活かしている。無理強いをせず状況に応じた役割や楽しみごと、気分転換を図るなどの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の行事や季節に応じた外出やドライブを楽しんでいる。職員は、利用者の体調にあわせて支援している。家族の協力も得て地域行事に参加できるよう支援している。また、なるべく毎日散歩に出かけるようにしている。	四季折々の花見情報を入手して各地へ出かけ、気分転換を図っている。また、家族の協力のもと、祭りや地域の行事に参加している。天気の良い日には散歩に出かけ、単調な生活にならないよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自分で管理できる人にはしてもらっている。金銭の管理が困難な方には事業所が管理し、一人ひとりに応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話や手紙の支援は、本人の意向を受け支援している。職員が取り次ぐことで自由に通話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使いやすい配置や馴染みのものを取り入れており、居心地よく過ごせるようにしている。	事業所は、日当たりがよく明るい。玄関には、季節の草花が植えられ、来訪者の心が和むよう気配りされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には、ソファの設置や季節の花を飾り、居心地のよい空間をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、利用者の意向を確認し、その人らしい生活を居心地のよい居室で送ることができるよう支援している。	押し入れは広く、機能性と安全性に配慮したものとなっている。馴染みのある物や使い慣れた物品を持ち込み、落ち着いて過ごせるような空間をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、安全・安心して生活できるように支援している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日ごろから、理念を念頭におき支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日、散歩時に声かけや挨拶をしている。また、近隣の運動会や養護老人ホームの行事に参加している。幼稚園の子ども達の来訪もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、地域の人に認知症に関する話をする計画を立てている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域住民や地域包括支援センター職員、消防署職員、警察署等に参加してもらい、意見・情報交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから、市町村担当者と連絡をとり、助言や協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束をしないケアについて理解している。研修会や定例会に出席し、身体拘束の重大さや代替方法、知識の把握などに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の定例会や外部研修に参加し知識の把握に努めている。現場でも職員間で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している利用者はいない。今後のために、研修会があれば出席する体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談がある時は、いつでも支援している。入院している方の見舞いに行くこともある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の面会時などに不安や不満がないか希望を聞いている。家族会は立ち上がっていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や月1回のグループホームミーティングで意見を聞いている。個人面談も行い、意見が言える職場づくりをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回、人事考課を行っており、非正規職員を正規職員へ登用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、認知症実践者リーダー研修などの様々な研修会に参加している。職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、他事業所の見学や研修を受講している。代表者は、他事業所のリーダーとの交流を図り、各方面から情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、本人の希望や期待、不安を理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、職員間で話しあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や家族の実情や要望をもとに、その時点で必要なことを十分に見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共感と傾聴する姿勢をもち、ともに支えあう関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の要望を聞き、希望にそえるように支援している。利用者に問題が生じた際には、家族と話し合いを重ねている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前面談の際、月1～2回は面会に訪れてもらえるように話し合っている。また、家族との外出や外泊も支援している。友人の来訪もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食事等で、利用者同士が顔を合わせられる場所を設け、孤立しないように努めている。利用者同士が、ともに楽しく会話できる良い雰囲気づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人を訪問して話をしたり、家族に連絡して近況などを聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの際、本人に希望を聞いている。また、困難な場合は職員間で話し合っている。家族や主治医に相談している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	レクリエーションに回想法等を取り入れ、本人の過去のことを話してもらっている。家族の面会時にも生活情報などを聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の始まりに利用者一人ひとりと会話し、健康状態や精神状態の把握に努めている。必要に応じて管理者や職員間で話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、利用者の健康や精神状態を把握している。職員間でも十分に話しあい、利用者一人ひとりに応じた介護計画を作成し実行している。結果によってはカンファレンスを行い、話し合いを重ねるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートに記載し、情報の共有を図っている。急を要するときには、口頭で話し合いケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対応するため、いつも新たな視点で一人ひとりをみている。医師や看護師に相談し専門科医を紹介するなど、ともに支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員や絵本読み聞かせボランティアなど、いろいろな方の来訪があり利用者に喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科と整形外科以外を受診する際には、利用者のかかりつけ医を利用してもらっている。月1回、内科への定期健診に付き添っている。家族の希望にそった対応を心がけている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師の資格を保有しているため、利用者の小さな状態変化も見逃さずに対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の病院が隣接していることや管理者が看護師であることから、病院との情報交換は密に行われている。利用者や家族も安心してきている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所のターミナルケア指針にもとづき、利用者や家族の意向を踏まえて対応するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状況の変化や事故に備え、緊急時対応マニュアルを整備し、全職員に周知徹底を図っている。年に数回、応急手当等の研修会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、年2回、非難訓練を実施している。また、消防署の職員から話を聞いたり、シミュレーションを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、他の利用者に聞こえたり見えたりしないように配慮している。誇りやプライバシーを損ねないような声かけに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろの会話の中で、利用者が思いや希望を表出し、実現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にそって買い物に出かけるなど、できる限りの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、定期的に移動美容室の来訪がある。髪染めやパーマ、カットを利用し、身だしなみやおしゃれの支援をしている。また、毎月開催している理容室には男性利用者も参加している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にしてできる範囲で準備や片付けをしてもらっている。好き嫌いのある方には、献立を変更するなどの配慮をするときもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量に応じて、食事以外にバランス栄養食を摂取してもらっている。食べにくい方には、トロミを加えて栄養や水分を摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣づけている。また、寝る前には義歯を外してもらい洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、利用者一人ひとりの体調や排泄パターンを見極め、さりげなく声かけを行って誘導している。また、便座への移動を見守り、声かけも行いながらトイレでの自立した排泄に向け支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	温野菜にすることで、なるべく多く摂取できるようにしている。おやつには、季節の果物や繊維の多い野菜、果物などを提供している。運動を促し便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者が希望する時には、いつでも入浴できるように支援している。入浴を拒む利用者にも無理強いをせず、言葉や誘導に十分配慮したうえでリラックスして入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況を確認し、日中の休息や早めの就寝を促すなど、利用者一人ひとりの状況に配慮し声かけを行っている。リラックスして入眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更や利用者の状態に変化が見うけられた際には、そのつど記録し口頭で報告するようにしている。また、職員間で協力し合い、連携を密に図るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに応じた役割分担を行い、張りのある生活や手伝いができた時の喜びを大切に支援している。無理強いをせず、気持ちよく過ごせるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	管理者や職員は、利用者が屋内だけで過ごすことがないように配慮し、季節に応じた花見や外食、買い物など、積極的に外出の支援をしている。利用者の体調や天候などを考慮し、なるべく毎日散歩に出かけるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自分で管理できる人は所持しており、売店で買い物などを楽しんでいる。金銭の管理が困難な方には事業所が管理し、家族に金銭出納帳をコピーして渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を使って話す方や、着電時に出てくれる方もいる。年賀状を書いてもらって投函する支援も行っている。毎月のメッセージカードで近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾っている。カーテンやスダレ冷暖房を使用し気持ちよく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが個室となっているため、ラジオを聞く人や自室でテレビを見る人、書き物、読書、編み物を楽しむなど、自由に過ごしている。リビングで他の利用者との会話を楽しむ方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベットサイドには、いろいろな馴染みの品を持ち込んでおり、居心地よく過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置している。エレベーターもあり、洗面所やトイレは近くて広い。小使用トイレも設置している。利用者にわかりやすいように、トイレの表示なども工夫している。		